

【浜小学校教育目標】 こころ豊かでたくましく自ら学び続ける子

- ⑥ もいやりのある子 (徳育) …他人を思いやり、共生感のもてる子
- ⑦ ながえる子 (知育) …筋道だてて考え、自尊心のもてる子
- ⑧ げんきな子 (体育) …たくましい心と体で意欲のもてる子
- ⑨ ランティアの心 (志) …人に役立つ喜びのもてる子

アジサイも色鮮やかに咲き始め、「梅雨入り」との声も聞こえてきました。ここしばらく、地域の方や小学校への来訪者から、子ども達がほめられることが多くなってきました。けがをされた地域の方から「浜小学校の子から、優しい声をかけてもらい、とてもうれしくてお電話させていただきました。」「たまたま、同じ電車に乗り合わせましたが、電車の中でのマナーがすばらしかったです。」とわざわざお電話までいただき、ほめていただきました。また、校医さんからは「落ち着いていて、あいさつもすっかりできていますね」とのお話もありました。本当に嬉しい限りです。

さて、今回の学校だよりでは、『おかげボ』を育てるの第2回目、「考える子」について考えたいと思います。人は、様々な場面で考え、判断し、行動する生き物です。社会的な行動のほぼすべてが考えた上での行動だと言えます。それは、子ども達も同様です。この「考える力」を育み、伸ばしていくのが周囲の大人の役割でもあると思います。学校では、学習場面はもちろん、日常生活、友達関係等においても、「どのようにすればうまくいくのか」「どのように考えれば、よりよい判断ができ、よりよく行動できるのか」を発達段階に応じて、学習していきます。

ひとえに「考える」と言っても幅が広く、それぞれの環境やおかれた場面も異なるので、「思いやりの心を育てる」と同様で「これが正解」というものはありません。参考として、いくつかの考え方をあげますので、ご一読ください。

## ① 基礎・基本となる知識や情報を十分身につけることが大切です。

「考える」と言っても、何の知識も情報もなければ、考えようがありません。今まで経験したり、蓄えてきたりした知識や情報をもとにして、新たな知識や情報を身につけていく必要があります。時には、物事の基礎・基本として、無条件でしっかりと覚えこむことも必要ですが、基礎・基本を身につけていく過程の中でも、自分で工夫したり、試行錯誤したりするとも必要ですし、「こうしたら調べられるという」方法を身につけていくことも大切です。調べる方法や知識を蓄える方法としては、本から得る、誰かに尋ねる、インターネットで調べるなど様々な方法があります。考える元になる知識や情報を十分身につけることができるよう、「～～で調べてみたら…?」「〇〇さんにたずねてみたら…」など支援が必要です。



この本で調べてみたら…

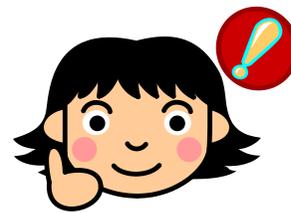
## ② ひとりひとりの疑問や好奇心を大切にし、理由や根拠を考えることが重要です。

人は好きなことには、探究心が強いものです。ひとりひとりの思いや願い、疑問などをきっかけにして、そこから考える習慣をつけていくとよいことがよくあります。

たとえば、子どもは「これ、どうしたらいいののかなあ?」とか「これ、なんでこうなっているの?」、「こんなんできへん!!」と言って来たりすることがよくあります。これは、子どもが興味を持ち、好奇心いっぱい、何とかしたいという気持ちの表れです。こんな時、「これは、こうやってこうしたらできるよ」としっかりと教えてあげることも必要かもしれません。でも、いつも、いつも答えをすべて教えていると、子どもも答えを待ち、自分で考えようとしなくなってしまうかもしれません。



どうしたらいいのかわからないよ。どうしたらいいのかわからないよ。



ですから、大人からみると、どうしたらよいかわかっていることでも、時には「どうしたら、いいんやろうね?」とか「なんでやろうね?」などと、もう一度子どもに考えるように促したり、少しヒントを与えて一緒に考えたりすることが、子どもの思考を活発にさせるのによいと言われています。また、考えるときには、比較する、選択する、予測する、予想することや根拠や理由をはっきりさせることも大切です。

## ③ 「経験」「体験」「発信・交流」がさらなる思考の場に。

子ども達は、遊びの達人です。ちょっとしたことからいろいろな遊びをみ出します。いらなくなった箱や缶、芯、ラップ、毛糸、リボンなどちょっとした廃材からいろいろなものを創り出します。自然の中でも新しい遊びを生み出し、様々なことを発見し、学びます。友達との遊びの中でも、ルールや約束・マナーがあり、多くの学びがあります。子ども達のこうした「経験」「体験」は、貴重な考える場となります。

「物を片付けない」「友達と言い合いに…」「それは、危ないのでは…!?!」とトラブルや、大人から見て「ちょっと!?!」と首をかしげたくなることもあります。実はそれが子どもと一緒に考えるよいチャンスにもなります。「どうしたらよかったんだろうね?」と問いかけたり、しっかりと片づけができたときには「きれいに片付けるとすっきりするね (気持ちいいね)。」とか「片付けてくれてありがとう。おかげですっきりしたわ。」と声をかけて認めたりしてみてください。

また、友達へ自分から発信したり、逆に友達の考えを聞いたりすると、新しい発想を生み出し、よりよい考えに至ることも多々あります。家族での会話も大切なことの一つです。

言うまでもなく、大人は、子ども達が心身ともに健やかに育つようにしっかりと見守り、支援していかなければなりません。大人から観て、子ども達がちょっと間違っただけの方向に向かいそうであれば、「それはダメ!」「ああしなさい、こうしなさい。」などと頭ごなしに言うばかりではなく、「こうしたほうがうまくいくと思うけど…」と自分の意見として子どもをよりよい方に促したり、「どうしてうまくいかないんだろうね。」と考える余裕を与えたりすることも大切だといわれています。誰でもそうですが、成功から学ぶことも多いですが、失敗から学ぶことも多いはず。特効薬はありませんが、少しずつ子どもも成長していくと思います。



裏面は白紙です。